

障がい福祉サービス等のサービス量の見込み

第5期計画におけるサービス量の実績および第6期計画における見込みは、以下のとおりです。

※ 「月あたり」の実績および見込みは、各年度末(3月)の実績および見込みを記載しています。

令和2年度の実績につきましては、令和2年7月の実績を記載しています。

※ 「年あたり」の実績は、各年度における1年間の実績を記載しています。

令和2年度につきましては、予算の数値を記載しております。

1 障がい福祉サービス

(1) 訪問系サービス

① 居宅介護（ホームヘルプ）

障がいのある人の居宅で、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。

② 重度訪問介護

重度の肢体不自由者などで、常に介護を必要とする人に、居宅における入浴、排せつ、食事の介護や外出時における移動支援などを総合的にを行います。

③ 同行援護

視覚障がいにより移動に著しい困難を有する人に、外出時に同行し、移動に必要な視覚的情報を提供するとともに、移動の援護や排せつ、食事等の介護などを行います。

④ 行動援護

知的障がいまたは精神障がいにより行動に著しい困難を有する人に、行動の際の危険を回避するための必要な支援および外出時の支援などを行います。

⑤ 重度障害者等包括支援事業

意思の疎通を図ることが困難で、常に介護を要し、その介護の必要性が著しく高い人に、居宅介護や通所などの複数のサービスを包括的に提供します。

【実績（月あたり）】

区 分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A		時間		6,644	6,918	7,483
実 績 B		時間	5,499	5,859	5,012	5,358
居宅介護	見込	時間		4,438	4,613	4,800
	実績	時間	3,525	3,821	3,880	3,934
重度訪問介護	見込	時間		1,304	1,352	1,676
	実績	時間	1,208	1,213	691	726
同行援護	見込	時間		852	895	940
	実績	時間	717	768	414	663
行動援護	見込	時間		50	58	67
	実績	時間	49	57	27	35
重度障害者等包括支援	見込	時間		0	0	0
	実績	時間	0	0	0	0
差 引 き (B - A)		時間		-785	-1,906	-2,125

区 分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A		人		446	466	487
実 績 B		人	364	435	416	421
居宅介護	見込	人		355	369	384
	実績	人	276	335	346	340
重度訪問介護	見込	人		7	8	9
	実績	人	13	13	7	8
同行援護	見込	人		78	82	86
	実績	人	67	77	58	68
行動援護	見込	人		6	7	8
	実績	人	8	10	5	5
重度障害者等包括支援	見込	人		0	0	0
	実績	人	0	0	0	0
差 引 き (B - A)		人		-11	-50	-66

訪問系サービスについては、ほぼ横ばいの状況が続いています。
 重度訪問介護は、令和元年度から利用者数・利用時間が減少しています。
 行動援護は、利用人数の増減を繰り返しながら推移しています。
 重度障害者等包括支援の利用は、ありません。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	時間	5,405	5,405	5,405
居宅介護	時間	3,839	3,839	3,839
重度訪問介護	時間	751	751	751
同行援護	時間	657	657	657
行動援護	時間	48	48	48
重度障害者等包括支援	時間	110	110	110

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	428	428	428
居宅介護	人	340	340	340
重度訪問介護	人	8	8	8
同行援護	人	70	70	70
行動援護	人	9	9	9
重度障害者等包括支援	人	1	1	1

・利用人数について

特に記載のない限り、過去の伸び率等を勘案して見込むことを基本とします。

同行援護は、新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年3月から5月までの利用者数が落ち込んでいますが、その期間を除けば横ばいに推移していることから、利用者数が落ち込む前の令和2年2月の実績を令和元年度の実績として採用し、平成29年度からの平均値を算出し、見込みました。利用の落ち込み時期を除外しなかった場合は、令和2年3月から7月への増大が過大に反映されてしまいます。

〔（参考）利用の落ち込み時期を除外しなかった場合の見込量（月あたり）〕

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量（同行援護）	時間	667	704	742
	人	71	75	79

行動援護は、利用人数の増減を繰り返しながら推移しているので、平成29年度からの平均値を算出し、見込みました。

重度障害者等包括支援については、過去の利用実績はありませんが、今後利用があるものとして見込みました。

・利用時間について

平成29年度からの一人当たりの平均利用時間に利用人数を乗じて見込みました。

(2) 日中活動系サービス

① 生活介護

常に介護を必要とする人に、主として昼間において、障がい者支援施設などにおいて、入浴，排せつ，食事の介護を行うとともに，創作的活動または生産活動の機会を提供をします。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		1,038	1,048	1,059
	日		21,795	22,013	22,233
実 績 B	人	996	974	996	1,012
	日	19,133	18,609	19,024	20,133
差 引 き (B-A)	人		-64	-52	-47
	日		-3,186	-2,989	-2,100

生活介護の利用は，増加傾向で推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	1,022	1,032	1,042
	日	19,755	19,949	20,142

・ 利用人数について

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

② 自立訓練（機能訓練）

障がいのある人が、自立した日常生活または社会生活ができるよう、身体機能の向上のために必要な訓練を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		4	4	4
	日		17	17	17
実 績 B	人	0	6	12	8
	日	0	46	62	53
差 引 き (B-A)	人		2	8	4
	日		29	45	36

自立訓練（機能訓練）の利用者は、増加傾向で推移しながらも、増加率は緩やかになっています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	10	10	10
	日	66	66	66

・ 利用人数について

自立訓練（機能訓練）の利用者は、増加傾向で推移しながらも、増加率は緩やかになっていることから、平成30年度からの利用人数の平均値を見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

③ 自立訓練（生活訓練）

障がいのある人が、自立した日常生活または社会生活ができるよう、生活能力の向上のために必要な訓練を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度 ※
第5期見込量 A	人		49	49	49
	日		1,025	1,025	1,025
実 績 B	人	43	45	37	43
	日	932	1,014	802	953
差 引 き (B-A)	人		-4	-12	-6
	日		-11	-223	-72

※ 7月の実績が取れなかったため、6月の実績を記載しています。

自立訓練（生活訓練）の利用者は、増減を繰り返しながら、ほぼ横ばいで推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	43	43	43
	日	946	946	946

・ 利用人数について

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

④ 就労移行支援

企業への就労を希望する人に、一定期間、生産活動などの機会を提供し、就労に要する知識および能力の向上のために必要な訓練を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		85	94	103
	日		1,419	1,560	1,717
実 績 B	人	73	56	49	61
	日	1,151	866	794	777
差 引 き (B-A)	人		-29	-45	-42
	日		-553	-766	-940

就労移行支援の利用状況については、事業所が年々減少していることから、減少傾向にあります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	61	61	61
	日	917	917	917

・ 利用人数について

減少傾向あるものの、障がい福祉サービス事業者に関する調査結果においては順調に推移しているため、減少率は考慮せず、令和2年7月の実績が維持されるものとして見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

⑤ 就労継続支援（A型）

一般企業等での就労が困難な人に、雇用契約を結んで働く場を提供するとともに、知識および能力の向上のために必要な訓練を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		193	226	263
	日		3,773	4,420	5,151
実 績 B	人	116	138	158	155
	日	2,311	2,631	3,056	3,153
差 引 き (B-A)	人		-55	-68	-108
	日		-1,142	-1,364	-1,998

就労継続支援（A型）の利用状況については、緩やかな増加傾向にあります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	164	174	184
	日	3,226	3,423	3,619

・ 利用人数について

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

⑥ 就労継続支援（B型）

一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識および能力の向上のために必要な訓練を行います。B型では、雇用契約は結びません。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		784	875	973
	日		13,955	15,567	17,324
実 績 B	人	688	775	795	826
	日	11,578	12,610	12,913	14,284
差 引 き (B-A)	人		-9	-80	-147
	日		-1,345	-2,654	-3,040

就労継続支援（B型）の利用状況については、緩やかな増加傾向にあります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	867	910	956
	日	14,444	15,161	15,927

・ 利用人数について

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

⑦ 就労定着支援

就労移行支援等を利用し一般就労へ移行した人について、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために企業・自宅等への訪問等により必要な連絡調整や指導・助言を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		5	6	7
実 績 B	人		2	3	3
差 引 き (B-A)	人		-3	-3	-4

就労定着支援の利用状況については、ほぼ横ばいで推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	12	14	16

障がい福祉サービス事業者に関する調査結果において、令和3年度に就労定着支援事業の実施を希望する事業所があることを勘案して見込みました。

⑧ 療養介護

医療と常時介護が必要な人に、昼間、医療機関などで機能訓練や療養上の管理、医学的管理下での介護および日常生活の世話をを行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		55	55	55
実 績 B	人	49	48	45	45
差 引 き (B-A)	人		-7	-10	-10

市内の利用者は固定化しています。令和2年9月には、八雲病院の重症心身障害60床が国立函館病院に移転しました。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	45	45	45

令和2年7月の実績が維持されるものとして見込みました。

⑨ 短期入所（福祉型，医療型）

居宅で障がいのある人を介護する人が病気の場合などに，障がいのある人を障害者支援施設などに短期入所させ，入浴，排せつ，食事の介護などを行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		45	46	47
	日		362	370	377
実 績 B	人	29	37	27	23
	日	260	325	240	184
差 引 き (B-A)	人		-8	-19	-24
	日		-37	-130	-193

短期入所については，介助者の体調不良等の理由により利用されるサービスであり，利用状況は一定の傾向を示していません。また，令和2年からは，利用者が減少していますが，新型コロナウイルス感染症の影響のためと考えられます。

令和2年9月には，八雲病院の短期入所4床が国立函館病院に移転しました。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	27	31	36
	日	226	260	302

・ 利用人数について

新型コロナウイルス感染症の影響により利用が落ち込んでいますが，利用人数が上向いてきているので，利用の落ち込みがあった時期をデータから除外して，利用人数を見込みました。

〔（参考）利用の落ち込み時期を除外しなかった場合の見込量（月あたり）〕

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	人	20	18	16
	日	168	151	134

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

(2) 居住系サービス

① 共同生活援助（グループホーム）

共同生活を行う住居において、主に夜間、相談や入浴、排せつ、食事の介護など日常生活上の援助を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		385	411	436
実 績 B	人	329	347	387	396
差 引 き (B-A)	人		-38	-24	-40

施設退所者や病院を退院した方の生活の場として、利用実績が毎年増加傾向で推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	416	437	459

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

② 施設入所支援

施設に入所している人に、主に夜間、入浴、排せつ、食事の介護などを行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		555	552	550
実 績 B	人	548	524	536	539
差 引 き (B-A)	人		-31	-16	-11

施設入所者の地域移行を進めるための施策を実施していますが、新規入所者も多くいるため、利用者数は横ばいで推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	535	531	527

令和5年度の成果目標に合わせて見込みました。

③ 自立生活援助

障害者支援施設やグループホーム等から一人暮らしへの移行を希望する人に、定期的な巡回訪問または随時の対応により、円滑な地域生活に向けた相談・助言等を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		4	5	6
実 績 B	人		0	0	0
差 引 き (B-A)	人		-4	-5	-6

自立生活援助の利用実績は、ありません。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	4	5	6

過去に実績がありませんが、地域生活への移行を推進するため、前計画と同数で見込みました。

2 相談支援

(1) 計画相談支援

障がい福祉サービスを利用するに当たって必要となるサービス等の利用計画を作成するとともに、定期的にサービス等の利用状況を検証します。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		415	432	449
実 績 B	人	245	255	385	364
差 引 き (B-A)	人		-160	-47	-85

事業所数が増加したことにより、増加傾向で推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	386	409	434

過去の伸び率等を勘案して見込みました。

(2) 地域移行支援

障害者支援施設または精神科病院を退所・退院する予定がある人に対し、住居の確保、地域生活の準備等の入居支援や福祉サービスの見学・体験のための外出への同行支援、地域における生活に移行するための活動に関する相談等の支援を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		8	9	10
実 績 B	人	2	1	1	1
差 引 き (B-A)	人		-7	-8	-9

利用者数は少ないですが、数名の利用がありました。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	8	9	10

低調で推移していますが、地域生活支援拠点等が有する機能の充実により、今後利用が増加するものと見込まれるので、前計画と同数で見込みました。

(3) 地域定着支援

地域移行後に独居など地域生活が不安定な人に対し、夜間等も含む緊急時における連絡、相談等の支援を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		4	5	6
実 績 B	人	0	0	0	0
差 引 き (B-A)	人		-4	-5	-6

利用実績は、ありませんでした。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	4	5	6

利用実績はありませんが、地域生活支援拠点等が有する機能の充実により、今後利用が増加するものと見込まれるので、前計画と同数で見込みました。

3 障がい児支援

(1) 障害児通所支援

① 児童発達支援

成長や発達に不安や遅れのある就学前の子どもを対象に、日常生活における基本的な動作や、知識技術の習得、集団生活への適応を目的とした訓練等を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		192	207	224
	日		2,243	2,423	2,617
実 績 B	人	202	224	234	212
	日	1,995	2,212	2,155	2,412
差 引 き (B-A)	人		32	27	-12
	日		-31	-268	-205

児童発達支援については、3月に比べて6・7月頃の利用人数が落ち込むため、令和2年度の実績について除外した上で、平成29年度から令和元年までの利用状況について見ると、利用者数が増加傾向にあることが分かります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	250	268	287
	日	2,415	2,589	2,772

・ 利用人数について

3月に比べて利用人数が落ち込む6・7月の実績である令和2年度のデータを除外して、過去の伸び率等を勘案して見込みました。

・ 利用日数について

平成29年度からの一人当たりの平均利用日数に利用人数を乗じて見込みました。

② 医療型児童発達支援

運動発達の遅れや肢体に障がいがある修学前の子どもを対象に、日常生活における基本的な動作や、知識技能の習得、集団生活への適応を目的とした訓練等および治療を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		20	20	20
	日		148	148	148
実 績 B	人	27	24	22	28
	日	223	211	109	255
差 引 き (B-A)	人		4	2	8
	日		63	-39	107

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の利用日数が大きく減少していますが、令和2年度には利用状況が戻っています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	25	25	25
	日	195	195	195

・ 利用人数について

増減を繰り返しながら推移しているため、平成29年度からの利用人数の平均を見込みました。

・ 利用日数について

新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に利用実績が落ち込んだ令和元年度のデータを除いた平成29年度からの一人当たりの平均利用日数を求め、利用人数を乗じて見込みました。

③ 放課後等デイサービス

学校に通学している障がいや発達に遅れのある子どもを対象に、放課後や夏休み等の長期休暇中において、日常生活に必要な訓練や指導などの療育を行うことにより、障がい児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		438	498	548
	日		5,554	6,315	6,949
実 績 B	人	470	534	543	682
	日	4,960	6,044	5,973	8,215
差 引 き (B-A)	人		96	45	134
	日		490	-342	1,266

新型コロナウイルス感染症対策のための小学校等における一斉臨時休業の影響により、令和2年度の利用者数・利用日数共に大きく増加しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	757	840	932
	日	8,501	9,433	10,466

・利用人数について

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月には一時的に利用人数が減少し、4月には利用人数が復調しているため、これらをそのまま伸び率算出の基データとすると過大な利用人数が算出されるため、調整した上で伸び率を算出し、見込みました。

〔（参考）伸び率を調整しなかった場合の見込量（月あたり）〕

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	人	798	934	1,093
	日	8,962	10,489	12,274

・利用時間について

平成29年度からの一人当たりの平均利用時間に利用人数を乗じて見込みました。

④ 保育所等訪問支援

障がいや発達に遅れのある子どもが通う保育園等を障がい児施設で指導経験のある保育士等が訪問し、集団生活へ適応するための支援や、訪問先施設のスタッフに対する支援方法の助言等を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		13	16	20
	日		15	20	25
実 績 B	人	11	21	16	14
	日	11	21	17	14
差 引 き (B-A)	人		8	0	-6
	日		6	-3	-11

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度実績、令和2年7月の実績共に落ち込んでいますが、それ以前は増加傾向で推移していました。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	16	19	22
	日	16	19	22

・利用人数について

新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年の利用状況は、4月から減少傾向にありますが、5月の緊急事態宣言解除後から徐々に復調してきていることを勘案して見込みました。

〔（参考）復調してきていることを勘案しなかった場合の見込量（月あたり）〕

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	人	14	14	14
	日	14	14	14

・利用時間について

平成29年度からの一人当たりの平均利用時間に利用人数を乗じて見込みました。

⑤ 居宅訪問型児童発達支援

平成30年度から実施されたサービスで、重度の障がいのため、障害児通所支援を受けるために外出することが著しく困難な障がい児に対し、居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		2	3	4
	日		8	12	16
実 績 B	人		0	0	0
	日		0	0	0
差 引 き (B-A)	人		-2	-3	-4
	日		-8	-12	-16

居宅訪問型児童発達支援の利用実績は、ありません。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	2	3	4
	日	8	12	16

過去の利用実績はありませんが、サービスの周知を図り利用が増えるものとして、前計画と同数で見込みました。

(2) 障害児相談支援

障害児通所支援を利用するに当たって必要となる障害児支援利用計画を作成するとともに、定期的に障害児通所支援等の利用状況を検証します。

【実績（月あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		72	78	84
実 績 B	人	122	126	148	102
差 引 き (B-A)	人		54	70	18

障害児相談支援については、6・7月頃の利用が落ち込むため、令和2年度の実績については除外し、平成29年度から令和元年までの利用状況について見ると、利用者数が増加傾向にあることが分かります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	115	130	147

利用が落ち込む6・7月の実績である令和2年度のデータを除外して、過去の伸び率等を勘案して見込みました。

4 地域生活支援事業

(1) 必須事業

① 理解促進研修・啓発事業

障がいのある人が日常生活をする上で生じる「社会的障壁」を除去するため、障がい者等や障がい特性等に関する理解を深めることを目的とし、研修・啓発を通じて、市民への働きかけを行います。

【実績】

現在、本市では、「ノーマライゼーション推進事業」として、学校や企業、地域などを対象にしたノーマリー教室、市民が障害福祉サービス事業所等を訪問し、直接職員や利用者等と交流する事業所等訪問、障がい者週間記念行事を実施し、その活動状況を市民へ周知する情報誌を発行しています。

また、障がいのある人と市民がレクリエーション等で交流を図る障がい者の「ふれあい交流事業」や手話の普及、啓発、理解促進を図る「手話の出前講座」、内部障がい等によって援助や配慮等を必要としていることが外見からはわからない方が周囲からの配慮を必要としていることを知らせるヘルプマークを配付する「ヘルプマーク配布事業」等を行っています。

【見込み】

「ノーマライゼーション推進事業」を継続して実施し、住民の障がいに対する理解を深める働きかけを行い、共生社会の実現を図ります。

② 自発的活動支援事業

障がいのある人やその家族、市民等が自発的に行う活動に対する支援を行います。

【実績】

現在、本市では、「ボランティア活動支援事業」として、精神障がい者の自助グループであるボランティア活動団体に対する支援を行っています。

【見込み】

今後も、障がいのある方等が、仲間と話し合い、自立のために社会に働きかける活動（ボランティア等）への支援や、障がいのある人の社会復帰活動への支援等を行います。

③ 相談支援事業

ア 障害者相談支援事業

障がいのある人やその家族からの相談に応じ、障がい福祉サービス等の利用援助や各種専門機関の紹介など必要な情報の提供や助言等を行うと共に、虐待の防止・早期発見のための援助を行います。

【実績】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	か所		2	2	2
実 績 B	か所	2	2	2	2
差 引 き (B-A)	か所		0	0	0

現在、2か所の事業所で必要な支援を行っており、内1か所は、基幹相談支援センターとして運営しています。

【見込み】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	か所	2	2	2

今後も、2か所の内、1か所は基幹相談支援センターとして、現在の事業所に、継続して事業を運営しています。

イ 基幹相談支援センター等機能強化事業

一般的な相談支援事業に加え、特に必要と認められる能力を有する専門的職員の配置や、地域の相談支援事業者等に対する指導・助言、人材育成の支援、地域移行に向けた取組等を実施し、相談支援機能の強化を図ります。

【実績】

社会福祉士等の資格を持つ専門職員の配置、相談支援事業者を訪問しての指導・助言の実施、および、研修会を実施し、人材育成の支援等を行いました。

【見込み】

今後も、相談支援機能の強化を図ります。

ウ 住宅入居等支援事業（居住サポート事業）

賃貸契約による一般住宅への入居に当たって支援が必要な障がい者に対し、必要な調整な調整や家主への相談・助言等を通じて、地域生活の支援を行います。

【実績】

相談支援事業として、住宅入居に関する相談にも対応しています。

【見込み】

今後も、対象者からの相談に対応し、生活の支援を行います。

④ 成年後見制度利用支援事業

障がいのある人やその家族からの相談に応じ、障がい福祉サービス等の利用援助や各種専門機関の紹介など必要な情報の提供や助言等を行うと共に、虐待の防止・早期発見のための援助を行います。

【実績（年あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		8	10	12
実 績 B	人	6	13	18	12
差 引 き (B-A)	人		5	8	0

函館市成年後見センターと連携し、相談件数は増加していますが、実際に助成の対象となる事例は少ない状況にあります。

【見込み（年あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	18	20	24

今後も、函館市成年後見センターと連携し、事業の周知に努め、利用者の増加を図ることとし、過去の伸び率等を勘案して見込みました。

⑤ 成年後見人法人後見支援事業

成年後見制度を適正に行うことができる法人を確保できる体制を整備するとともに、市民後見人の活用を含めた法人後見の活動を支援します。

【実績】

函館市成年後見センターにおいて、福祉事業者向け法人後見実施のための研修会を開催しました。

【見込み】

今後も、函館市成年後見センターにおいて、研修会を開催するなど、法人後見の活動を支援します。

⑥ 意思疎通支援事業

ア 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚、言語機能または音声機能の障がいのため、意思疎通に支障のある人に対し、その円滑化を図るため、手話通訳者・要約筆記者等を派遣します。

【実績（年あたり）】

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	件		1,568	1,568	1,568
実績 B	件	1,673	1,416	1,343	1,331
差引き (B-A)	件		-152	-225	-237

主に、通院時や講演会、会議等での利用がありますが、利用状況は減少傾向にあります。

【見込み（年あたり）】

区分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	件	1,331	1,331	1,331

減少傾向にはありますが、一定のニーズはあるため、令和2年度の見込みの人数と同数を見込みました。

イ 手話通訳者設置事業

聴覚、言語機能または音声機能の障がいのため、意思疎通に支障のある人に対し、その円滑化を図るため、専任の手話通訳者を配置します。

【実績】

区分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		2	2	2
実績 B	人	2	2	2	2
差引き (B-A)	人		0	0	0

現在、障がい保健福祉課および亀田福祉課の2か所に専任の手話通訳者各1人を配置しており、手話を必要とする聴覚障がい者からの相談時等の通訳を行っています。

【見込み】

区分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	2	2	2

今後も、現在の2か所への配置を継続します。

⑦ 日常生活用具給付等事業

在宅の障がい者等に対し、日常生活の便宜を図るため、日常生活用具の給付または貸与を行います。

【実績（年あたり）】

区 分		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A		件		8,341	8,644	8,958
実 績 B		件	7,420	7,652	8,054	8,317
介護・訓練支援 用具	見込	件		2	2	2
	実績	件	16	24	13	13
自立生活支援 用具	見込	件		57	57	57
	実績	件	36	44	40	45
在宅療養等支援 用具	見込	件		35	35	35
	実績	件	34	32	57	44
情報・意思疎通 支援用具	見込	件		265	265	265
	実績	件	180	259	173	215
排泄管理支援 用具	見込	件		7,973	8,276	8,590
	実績	件	7,151	7,289	7,765	7,996
居宅生活動作 補助用具	見込	件		9	9	9
	実績	件	3	4	6	4
差 引 き (B-A)		件		-689	-590	-641

排泄管理支援用具については、毎年増加していますが、それ以外の品目では増減を繰り返し推移しています。

【見込み（年あたり）】

区 分		単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量		件	8,735	9,072	9,422
介護・訓練支援用具		件	17	17	17
自立生活支援用具		件	41	41	41
在宅療養等支援用具		件	42	42	42
情報・意思疎通支援用具		件	207	207	207
排泄管理支援用具		件	8,424	8,761	9,111
居宅生活動作補助用具		件	4	4	4

今後も、これまでの実績を基に、排泄管理用具については給付の件数が伸びるものと見込み、その他の用具については過去の実績から見込みました。

⑧ 手話奉仕員養成研修事業

意思疎通を図ることに支障がある障がい者の自立した日常生活または社会生活を支援するため、手話で日常生活を行うのに必要な技術等を習得した手話奉仕員を養成します。

【実績（年あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		130	130	130
実 績 B	人	42	62	52	130
差 引 き (B-A)	人		-68	-78	0

講習の受講者は、定員の半分に達していません。

【見込み（年あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	130	130	130

派遣事業のニーズに対応するため、事業を継続し、受講者の確保に努めます。人数は、各講習の定員の合計で見込みました。

⑨ 移動支援事業

屋外での移動が困難な障がい者等について、社会生活上必要不可欠な外出および余暇活動等の社会参加のための外出の際の移動を支援します。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		45	45	45
	時間		441	441	441
実 績 B	人	39	31	29	35
	時間	372	266	222	271
差 引 き (B-A)	人		-14	-16	-10
	時間		-175	-219	-140

主に、サークル活動への参加での利用となっておりますが、利用は、年々減少しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	40	40	40
	時間	335	335	335

過去の実績および余暇活動における利用の増加を考慮して見込みました。

⑩ 地域活動センター機能強化事業

障がいのある人の地域生活を支援するため、通所により、創作的活動または生産活動の機会および社会との交流の促進等の便宜を供与する地域活動支援センターにおいて、日中活動の場を提供します。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	か所		5	5	5
	人		269	269	269
実 績 B	か所	6	6	6	6
	人	262	261	289	269
差 引 き (B-A)	か所		1	1	1
	人		-8	20	0

利用者は、ほぼ横ばいで推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	か所	6	6	6
	人	269	269	269

今後も事業所数利用者数ともに現状と変わらないものと見込みました。

⑪ 障害児等療育支援事業

障がいのある児童等の地域生活を支えるため、療育に関する相談・支援および地域の施設等に対する専門的な相談・支援を行います。

【実績】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	か所		1	1	1
実 績 B	か所	1	1	1	1
差 引 き (B-A)	か所		0	0	0

事業を実施している1か所は、北海道からの委託も受けています。

【見込み】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	か所	1	1	1

現在、事業を実施している事業所に、継続して委託することとします。

⑫ 専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修事業

ア 手話通話者・要約筆記者養成研修事業

身体障がい者福祉の概要や手話通訳または要約筆記の役割・責務等について理解し、必要な技術等を習得した手話通訳者および要約筆記者の養成を行います。

【実績】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		3	3	3
実 績 B	人	0	11	2	3
差 引 き (B-A)	人		8	-1	0

年度によって、利用実績に増減があります。

【見込み】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	3	3	3

過去の実績から、令和2年度の見込みと同数で見込みました。

イ 盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

盲ろう者の自立と社会参加を図るため、盲ろう者向けの通訳・介助員の養成を行います。

【実績】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		2	2	2
実 績 B	人	0	0	0	2
差 引 き (B-A)	人		-2	-2	0

平成29年度からの利用実績は、ありませんでした。

【見込み】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	2	2	2

令和2年度の見込みと同数で見込みました。

⑬ 専門性の高い意思疎通支援を行う者の養成研修事業

ア 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚に障がいのある人の自立と社会参加を図るため、複数市町村の住民が参加する障がい者団体等の会議，研修，講演または講義等における派遣を可能とするため，手話通訳者または要約筆記者を派遣します。

【実績】

実施に向けて検討を進めています。

【見込み】

手話通訳者・要約筆記者養成研修事業の受講者の状況を把握するとともに，現在実施している派遣事業者との調整を図りながら，当面は，実施に向けた体制の整備を進めます。

イ 盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

盲ろう者の自立と社会参加を図るため，コミュニケーションおよび移動等の支援を行う盲ろう者向けの通訳・介助員を派遣します。

【実績】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		24	24	24
実 績 B	人	0	0	0	24
差 引 き (B-A)	人		-24	-24	0

平成29年度からの利用実績は，ありませんでした。

【見込み】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	24	24	24

対象者が限定されるため，令和2年度の見込みと同数で見込みました。

ウ 失語症者向け意思疎通支援者養成研修事業

失語症者の自立と社会参加を図るため、失語症者とのコミュニケーション手法等の指導を行い、意思疎通支援者を養成する事業です。

【実績】

実施に向けて検討を進めています。

【見込み】

既に本事業を実施している北海道および札幌市の状況ならびに本市における失語症者向け意思疎通支援者のニーズ等を把握し、当面は、実施に向けた体制の整備を進めます。

(2) 任意事業

① 福祉ホーム

地域生活を支援するため、住居を必要とする人に、低額な料金で、居室その他の設備を利用させるとともに、日常生活に必要な便宜を供与します。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	か所		1	1	1
	人		15	15	15
実 績 B	か所	1	1	1	1
	人	14	14	15	15
差 引 き (B-A)	か所		0	0	0
	人		-1	0	0

現在、市内には1施設がありますが、定員である15人が入居しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	か所	1	1	1
	人	15	15	15

今後も、施設および定員の増加予定がないことから、令和2年と同数を見込みました。

② 訪問入浴サービス

歩行が困難で移送に耐えられない等の事情がある在宅の身体に障がいのある人に訪問による入浴サービスを提供します。

【実績（年あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		6	6	6
	回		415	415	415
実 績 B	人	4	4	3	4
	回	267	229	219	396
差 引 き (B-A)	人		-2	-3	-2
	回		-186	-196	-19

増加減少を繰り返しながら推移しています。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	4	4	4
	回	396	396	396

対象者が重度の障がいのある人で、移動および家庭での入浴が困難な人と限定されることから、令和2年度の見込みと同数で見込みました。

③ 中途障害者生活訓練

身体に中途障がいのある人に対し、自宅内およびその周辺地域等において、歩行訓練や日常生活に必要な訓練および指導等を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		1	1	1
実 績 B	人	0	0	0	1
差 引 き (B-A)	人		-1	-1	0

過去の利用実績はありません。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	1	1	1

今後の利用希望者を勘案し、令和3年度以降も1人の利用を見込みました。

④ 日中一時支援

介護している家族が一時的に休息がとれるようにするとともに、障がいのある人に日中活動の場を提供し、社会に適応するための日常的な訓練その他の支援を行います。

【実績（月あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		22	22	22
	回		104	104	104
実 績 B	人	21	20	20	23
	回	96	122	110	118
差 引 き (B-A)	人		-2	-2	1
	回		18	6	14

年度によって、利用実績に増減があります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	23	23	23
	回	118	118	118

年度によって、利用実績に増減があることから、令和2年度と同数を見込みました。

⑤ スポーツ・レクリエーション教室開催等

スポーツ・レクリエーションを通じて、障がい者等の体力増強，交流，余暇等に資するためおよび障がい者スポーツを普及するため，各種スポーツ・レクリエーション教室等を開催し，障がい者スポーツに触れる機会を提供します。

【実績】

現在，本市では，「障害者スポーツ教室開催事業」，「知的障害者成年教室開催事業」および「精神障害者ふれあい交流事業」を実施しています。

【見込み】

現在実施している事業を継続して実施します。

⑥ 障がい福祉のしおり発行事業

障がいに関する相談の窓口や関係機関が実施している制度等を周知するため，障がい福祉のしおりを発行し，関係者等に配布します。

【実績】

各種の制度を，年金，手当，保険・貸付制度，健康・医療，福祉サービス，各種減免等に分けて，その概要を紹介した冊子を毎年度発行しています。

【見込み】

今後も事業を継続します。

⑦ 奉仕員養成研修事業

点訳または朗読に必要な技術等を習得した点訳奉仕員，朗読奉仕員等を養成研修します。

【実績（年あたり）】

区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		80	80	80
実 績 B	人	18	14	22	80
点 訳	見込		40	40	40
	実績	7	7	8	40
朗 読	見込		40	40	40
	実績	11	7	14	40
差 引 き (B-A)	人		-66	-58	0

点訳については専門的な技術を要すること，また，朗読については他の団体等でも講習を実施していることなどから，各講座とも受講者は，定員を大きく下回っています。

【実績（年あたり）】

区 分	単 位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	80	80	80
点 訳	人	40	40	40
朗 読	人	40	40	40

今後も定員を同数とし，受講者の確保に努めます。

⑧ 身体障害者自動車運転免許取得助成事業

就労その他の社会参加を促進するため、身体に障がいのある人を対象に、自動車運転免許証の取得に要する費用の一部を助成します。

【実績（年あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		5	5	5
実 績 B	人	1	1	2	3
差 引 き (B-A)	人		-4	-3	-2

年度によって、利用実績に増減があります。

【見込み（年あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	3	3	3

年度によって、利用実績に増減があることから、令和2年度と同数を見込みました。

⑨ 重度身体障害者用自動車改造助成事業

就労その他の社会参加を促進するため、身体に重度の障がいのある人が自ら所有する車を改造した場合に、その費用の一部を助成します。

【実績（年あたり）】

区 分	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度
第5期見込量 A	人		5	5	5
実 績 B	人	9	1	6	7
差 引 き (B-A)	人		-4	1	2

年度によって、利用実績に増減があります。

【見込み（月あたり）】

区 分	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
第6期見込量	人	6	6	6

一定のニーズがあるものと考えられるので、平成29年度からの平均利用人数を見込みました。